

医 04 整形用品  
管理医療機器 分娩時処置用具セット JMDN コード 70978000

## ハクゾウ分娩キットII

### 再使用禁止「はさみを除く」

#### 【警告】

##### 1.気管支吸引用カテーテル

###### <使用方法>

- ・低酸素状態にある患者に使用する場合は、特に吸引圧、吸引時間に注意して使用すること。[無気肺をきたすおそれがある。]
- ・カテーテルを経鼻挿入する際には、鼻腔及び気管の粘膜を傷つけないこと。[無気肺をきたすおそれがある。]

##### 2.吸引キット

###### <使用方法>

カテーテルを経鼻挿入する際には、鼻腔及び気管の粘膜を傷つけないこと。[無気肺をきたすおそれがある。]

##### 3.臍帯閉鎖術用クリップ

結紮・切断の約30分から1時間後には、臍帯から出血のないことを確認すること。

##### 4.単回使用メス

非常に鋭利な刃物であるため、取り扱いに注意すること。[切傷、穿刺等のおそれがある。]

##### 5.単回使用メス用刃

非常に鋭利な刃物であるため、取り扱いに注意すること。[切傷、穿刺等のおそれがある。]

##### 4.単回使用メス用刃

###### <適用対象(患者)>

ステンレス鋼又はカーボン鋼に過敏症がある患者には使用しないこと。

###### <使用方法>

電気メスを用いた接触凝固は行わないこと。[術者が感電・熱傷の危険又は器具表面を損傷する可能性がある。]

###### <併用医療機器>

専用ハンドル以外のハンドルへの取り付け禁止。[不具合による危険性が高まるおそれがある。]

##### 5.汎用注射筒

造影剤等の高圧注入には使用しないこと。[液漏れ、破損のおそれがある。]

##### 6.X線造影材入りガーゼ、X線造影材入りスポンジ

- ・X線造影剤部分を直接挟んで使用しないこと。[切断又は抜け落ちて体内に残存するおそれがある。]
- ・電気メス等を近づけないこと。[引火するおそれがある。]

##### 7.医療ガーゼ、開腹術用スポンジ、綿状パッド

電気メス等を近づけないこと。[引火するおそれがある。]

##### 8.はさみ

曲げ、切削、打刻(刻印)等の二次加工(改造)することは、絶対に行わないこと。[折損等の原因となる。]

#### 【禁忌・禁止】

- 再使用禁止(はさみを除く)
- 再滅菌禁止

##### 1.気管支吸引用カテーテル、間欠泌尿器用カテーテル、吸引キット

カテーテルを鉗子等で挟まないこと。また、刃物等による傷は絶対に避けること。[カテーテルの切断、空気混入、液漏れ等が生じるおそれがある。]

##### 2.天然ゴム製手術用手袋

###### <適用対象(患者)>

天然ゴムの材質に対し、アナフィラキシー症状の既往歴がある医療関係者及び患者に使用しないこと。

##### 3.単回使用メス

###### <適用対象(患者)>

ステンレス鋼又はカーボン鋼に過敏症がある患者には使用しないこと。

###### <使用方法>

電気メスを用いた接触凝固は行わないこと。[術者が感電・熱傷の危険又は器具表面を損傷する可能性がある。]

#### 【形状・構造及び原理等】

本品は、医療機器 2 品目以上と消毒、処置に必要とされる以下の構成部品を組み合わせで滅菌したものである。

##### 【管理医療機器】

	構成品の一般的名称
1	単回使用注射用針
2	気管支吸引用カテーテル
3	間欠泌尿器用カテーテル
4	吸引キット
5	臍帯閉鎖術用クリップ
6	天然ゴム製手術用手袋
7	非天然ゴム製手術用手袋
8	単回使用メス
9	単回使用メス用刃

##### 【一般医療機器】

	構成品の一般的名称
1	汎用注射筒
2	吸引チューブ
3	汎用洗浄用注射筒
4	単回使用汎用サージカルドレープ
5	X線造影材入りガーゼ
6	医療ガーゼ
7	X線造影材入りスポンジ
8	開腹術用スポンジ

9	綿状パッド
10	医療用不織布
11	医療脱脂綿
12	コットンボール
13	はさみ

【附属品】

	構成品の名称
1	レギンスカバー
2	吸収マット
3	防水シート
4	腹部シート
5	ベビー受け
6	分娩衣
7	ガウン
8	エプロン
9	マスク
10	キャップ
11	ベビーキャップ
12	胎盤受け
13	膿盆
14	トレー
15	カップ
16	お産パッド
17	直後パッド
18	ショーツ
19	腹帯
20	タオル
21	胎盤袋
22	汚物袋
23	ネームバンド
24	クリップ
25	針受け
26	ラップバー
27	メジャー
28	ヒモ
29	吸引器
30	グローブ
31	ピンセット
32	包帯
33	テープ
34	綿棒

【使用目的又は効果】

本品は、産婦及び新生児に使用することを目的とし、消毒、止血、排液除去等の処置に必要な部材を組合せていることで、迅速な処置を可能にする。

【使用方法等】

1. 滅菌包装に損傷や傷がないことを確認し、開封する。
2. 滅菌包装から中身を取り出し、適切な方法で展開する。
3. 構成品の種類、数量がラベル等に表示されている本品の構成内容と相違がないか確認する。
4. 各構成品は、医師の判断のもとで実施する処置、手技の手順に沿って各構成品の使用方法に従い使用する。
5. 附属品の「グローブ」「ピンセット」を使用する対象は、衛生材料などの医療機器ではなく、排液除去などを目的に使用する。

<<構成品の使用方法等>>

単回使用注射用針

1. 注射針をシリンジに確実につける。
  2. プロテクターをまっすぐ引き外して使用する。
- <使用方法等に関連する使用上の注意>

- ・プロテクターを外す場合には、針先がプロテクターに接触しないように注意すること。[針先が変形して、切れ味が悪くなるおそれがある。]
- ・プロテクターを被せる必要がある場合には、針刺しに注意し真っ直ぐに被せること。[プロテクター内面に針先が接触すると、針先がプロテクターを貫通して誤刺しのおそれがある。]
- ・針管には直接手を触れないように注意すること。[針刺し及び感染のおそれがある。]
- ・薬液吸引等の際に、アンプル等の薬液容器壁面に注射針が当たらないように注意すること。[針先が変形して、切れ味が悪くなるおそれがある。]
- ・ゴム栓等に刺通する場合は、まっすぐ刺通すると共に、同一部位に繰り返し刺通しないこと。[刺通部位がくり抜かれ(コアリング)、針管の詰まりやゴム片等が混入するおそれがある。]
- ・ゴム栓に対して斜めに刺したり、穿通中に横方向の力を加えたりしないこと。[針管又は針基に曲りや破損のおそれがある。]
- ・接続部を汚染しないよう注意すること。
- ・針管表面には穿通時の荷重低減のためシリコンを塗布しているので針管表面が油膜状に見える場合がある。
- ・何等かの原因により曲がった針管や、曲がった針管を元に戻して使用しないこと。[針管が折れて体内に残留するおそれがある。]

汎用注射筒

筒先の汚染に注意しながらISO594-1/ISO594-2又はISO80369-6に対応したコネクタ等を確実に接続し使用する。(必要な場合は、筒先に注射針等を確実に接続して使用する。)

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- ・他の医療機器と併用する場合は、確実に接続、又は取り付けられていることを確認し使用する。
- ・外筒印刷部を擦ったり、薬液等を付着させたりしないこと。[印刷部が剥離するおそれがある。]
- ・注射筒に過度の引張りや、接続部に対する過度の応力を加えないこと。また、患者の体動による投与ラインの押し潰し等には十分注意すること。[接続部の破損、緩みや外れ等が生じるおそれがある。]
- ・注射筒の筒先にはコネクタ(ISO594-1/ISO594-2)とコネクタ(ISO80369-6)の2種類のコネクタ形状規格があるため、それぞれの規格に適合する製品と接続すること。[コネクタに互換性はないので、異なる規格の製品同士は接続できない。また、無理に接続を行うと気密性が保持できなくなる。](1)(2)(3)

気管支吸引用カテーテル

1. コネクタを吸引器に確実に接続する。
2. カテーテルを滅菌蒸留水につけ、通水する。

●口腔・鼻腔内吸引の場合

3. カテーテルを挿入する。経鼻の場合は、カテーテルを鼻腔に沿って挿入し先端を咽頭部まで進める。
4. 吸引圧をかけないで目的の場所まで挿入後、吸引圧を加えると共に、先端を回転させながら、吸引する。
5. 吸引圧の調節は、調節口付きでは側口をふさいで調節する。調節口のない場合にはカテーテルを折り曲げて行う。

●気管内吸引の場合

3. 一方の手でカテーテルの基部を持ち、カテーテルの先端を滅菌手袋した他方の手で持つか、滅菌セクションを使用して持つ。(ストレートタイプの場合)
4. 吸引圧をかけずにカテーテルを気道内まで進め、適切な深さに挿入後吸引を加えるとともに、先端を回転させながら吸引する。(アングルタイプの場合)
4. 吸引圧をかけずにカテーテルを気道内まで進め、カテーテル先端を左右どちらかの気管支内へ挿入後、吸引圧を加えて吸引する。
5. 分泌液が多く、1回の吸引で不十分な場合は、一旦カテーテルを

抜去して、深呼吸させたりバッグで肺を膨張させたりした後、再び吸引をする。

#### ＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- ・使用前に、カテーテルの太さや長さが挿入部位に適合していることを確認すること。
- ・他の医療機器と併用する場合は、確実に接続又は取り付けられていることを確認し使用すること。
- ・接続部への薬液等の付着に注意する。[接続部の緩み等が発生するおそれがある。]
- ・カテーテル挿入に抵抗がある場合は、カテーテルを抜いて、原因を解消した後、もう一度挿入し直すこと。[粘膜損傷を引き起こすおそれがある。]
- ・カテーテルを挿入する際は、挿入部位への入れすぎに注意すること。[カテーテルを抜去できなくなる、又は粘膜損傷を引き起こすおそれがある。]
- ・カテーテル挿入時には、歯、鼻甲介及び鋭利な器具等でカテーテルを傷つけないよう注意すること。[液漏れ、空気混入や損傷のおそれがある。]
- ・カテーテル挿入時には、吸引をかけたまま挿入しないこと。[粘膜損傷のおそれがある。]
- ・低酸素状態、粘膜損傷を発生させないため、吸引時間、吸引圧及び挿入操作に十分注意すること。
- ・過度の吸引圧は、肺胞の虚脱や低酸素血症、気管壁の損傷、出血を起こすので注意する。
- ・吸引時は口腔、鼻腔、咽頭、気道粘膜への損傷に注意すること。特に長期にわたり人工呼吸を行っている患者においては、定期的な気管支ファイバー等で気道粘膜の状態を観察すること。[カテーテル先端部が繰り返し気道粘膜を損傷すると、出血のおそれがある。]

#### 間欠泌尿器用カテーテル

- 1.尿道口の周囲を確実に消毒する。
- 2.カテーテル先端部及び尿道口にキシロカインゼリー等の潤滑油を塗る。
- 3.カテーテルをゆっくり尿道口より挿入する。
- 4.尿の排出終了後、直ちにカテーテルを抜く。

#### ＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- ・使用前に滅菌蒸留水等で通水を確認すること。
- ・尿道への挿入時に困難を認めた場合には、無理な挿入はやめること。

#### 汎用洗浄用注射筒

- 1.バルブを握って圧縮した後、解放することで、本体の復元力により洗浄液等を吸引する。
- 2.シリンジ内に吸引物がある状態で、バルブを握って圧縮することにより、洗浄液等を排出し、洗浄を行う。

#### 吸引キット

- 1.カテーテルを口腔、鼻腔から挿入しマウスピースより口、シリンジまたは吸引器で羊水等を吸引、採取する。
- 2.以下に羊水吸引の一例を示す。  
新生児の鼻孔が真下に向いていることに留意して、鼻孔内にカテーテルを挿入して羊水を吸引する。  
新生児の口を開かせて、口腔内、咽頭内等の羊水を吸引する。
- 3.必要に応じて、吸引した羊水等の粘液の量を羊水トラップの目盛で確認する。
- 4.吸引した羊水等の粘膜を検体検査に使用する場合は、トラップキャップを外してトラップ内の羊水等を採取する。
- 5.一回の吸引時間はなるべく短くすること。羊水等の量が多く、一回の吸引で不十分な場合は必ず途中で休み、患者の状態を確認した後に行う。

#### 臍帯閉鎖術用クリップ

- 1.臍輪から約 2cm の部位の臍帯をクランプの中央に合わせる。
- 2.クランプの先端をカチッと音がするまで押して確実に結紮する。
- 3.クランプから胎盤側に約 1cm 離れた部位を臍帯剪刀で切断する。
- 4.臍帯が確実に結紮されていることを確認し、常に児の状態を監視する。特に結紮・切断の約 30 分～1 時間後には臍帯から出血のないことを確認する。
- 5.クランプは、結紮後 24 時間以上経ってから、解除子を使って取り外す。解除子をフック受部に差し込み、ロックを解除する。

#### 天然ゴム製手術用手袋、非天然ゴム製手術用手袋(共通)

無菌的に取り出して装着し、使用する。

#### 単回使用汎用サージカルドレープ

粘着テープ又は粘着性フィルムドレープを剥がす際には、皮膚よりゆっくりと剥がすこと。また、剥がす際には押さえている手をこまめに粘着境界部に移動し、皮膚に緊張をかけないように配慮すること。

#### 吸引チューブ

##### ●コネクタ付きタイプ

- 1.接続する各種の機器類やチューブの径、及び必要な距離とコネクタを確認し、対応した吸引チューブを選択する。
- 2.使用する機器にしっかりと接続する。

##### ●バブルタイプ・ストレートタイプ

- 1.接続する各種の機器類やチューブの径、及び必要な距離を確認し、対応した吸引チューブを選択する。
- 2.必要な長さにカットする。
- 3.使用する機器に確実に接続する。

#### 単回使用メス

##### ●フェザーディスプレイザブルスカルペル

- 1.刃先のカバーを折り、外科的手術の一般的な切開に使用する。
- 2.“SNAP”部分を折り、刃先カバーを外す。

##### ●フェザーセーフシールドスカルペル

- 1.使用時はプッシュボタン前部を押しながら、手前にスライドさせ、外科的手術の一般的な切開に使用する。
- 2.使用後はプッシュボタン前部を押しながら安全カバーを前にスライドさせ、刃先を覆い、廃棄処分する。柄部のスケールは目安程度に使用する。

##### ●スワンモートンディスプレイザブルスカルペル

術式及び切開部位に適切な形状を選択する。

#### 単回使用メス用刃

##### ●フェザー替刃メス

専用ハンドルに装着して使用する。

##### ＜専用ハンドル＞

フェザー替刃メスハンドル(製造販売届出番号:21B2X10001062003)

##### ＜替刃の装着方法＞

- 1.替刃のガイド穴をハンドル先端の溝に合わせる。
- 2.替刃の刃先を手前に反らし、そのままカチッというまで押し込む。

##### ＜替刃の取り外し方法＞

- 1.替刃の後部を手前に押し上げ、ハンドル先端より浮かす。
- 2.替刃のガイド穴がハンドルから浮いた状態で替刃をゆっくりと引き出す。

##### ●スワンモートン替刃メス

- 1.指定のハンドルに装着して使用する。
- 2.使用後はハンドルより取り外し、適切な方法にて廃棄する。

## X 線造影材入りガーゼ、X 線造影材入りスポンジ、医療ガーゼ、開腹術用スポンジ、綿状パッド、医療用不織布、医療脱脂綿、コットンボール(共通)

使用目的に応じ、適宜使用する。

### はさみ※

ハンドル部を操作することにより先端部が開閉し、対象物を挟み、閉じる事によって組織、布、縫糸等の切断を行う。

※については再使用できる。

<再使用の方法>

- (1) 使用後はできるだけ早く血液、体液、組織等の汚物を除去し、職業感染防止のために洗浄・消毒すること。
- (2) 汚物除去に用いる洗剤は、洗浄方法に適したものを選択し、適正な濃度で使用する。
- (3) 洗剤の残留がないように十分すすぎをすること。仕上げすすぎは浄化水(ろ過、蒸留、脱イオン化等)を用いることを推奨する。
- (4) 浄化後は、腐食防止のために直ちに乾燥すること。
- (5) 使用(滅菌)前に汚れ、傷、曲り、可動部の動き等に異常がないかを点検すること。
- (6) 点検後セット・包装をし、高圧蒸気滅菌(JIS T 0816-1:ヘルスケア製品の滅菌—湿熱—に則り、121°C・15分、126°C・10分、134°C・3分等の条件で行う)をすること。なお滅菌のためのセット・包装にあたってはジョー部等の可動部を開放するなど、確実に滅菌できるように配慮すること。
- (7) 強アルカリ/弱酸性洗剤・消毒剤は、器具を腐食させるおそれがあるので使用を避けること。金属たわし、クレンザー(磨き粉)等は器具の表面が破損するので、汚物除去及び洗浄時に使用しないこと。

### 【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

1. 本品及び構成部品は1回限りの使用で使い捨てとし、再使用しないこと。(はさみを除く。)
2. 本品は振動・衝撃を与えると破損するおそれがあるので、取扱いに注意すること。
3. 滅菌包装を破損しないように丁寧に扱うこと。
4. 本品及び構成部品は、未使用の場合でも再滅菌しないこと。

<<構成品の使用上の注意>>

### 全共通

- ・包装を開封したらすぐに使用し、使用後は感染防止に留意し安全な方法で処分すること。
- ・医師の指示に従って使用すること。

### 単回使用注射用針

- ・使用前、接続部に緩みがないことを確認すること。また、使用中は注射用針の破損、接続部の緩み及び液漏れ等について、定期的に確認すること。
- ・注射用針の接続に際して、過度の締め付け及び増し締め等には十分注意すること。[接続部が外れなくなったり、破損したりするおそれがある。]
- ・接続部に薬液や血液等が付着すると、接続部に緩み等が生じる場合があるので注意すること。

### 汎用注射筒

- ・使用前、接続部に緩みがないことを確認すること。また、使用中は注射筒の破損、接続部の緩み及び液漏れについて、定期的に確認すること。
- ・注射筒の接続に際して、過度の締め付け及び増し締め等には十分注意すること。[接続部が外れなくなったり、破損したりするおそれがある。]

れがある。]

- ・接続部に薬液や血液等が付着すると、接続部に緩み等が生じる場合があるので注意すること。
- ・医薬品の種類によっては、注射筒の外筒の内側に塗布されているシリコーン油が析出することがあるので注意すること。シリコーン油が析出した場合は、適切な処置をとること。

### 気管支吸引用カテーテル

- ・脂溶性の薬剤等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので、注意すること。
  - ・使用前にはコネクタと吸引器がしっかり接続されていることを確認すること。また、使用中はカテーテルの破損、接続部の緩みや漏れ及び詰まり等について注意すること。
  - ・コネクタを接続する場合には、過度な締め付けに注意すること。[接続部が破損するおそれがある。]
  - ・カテーテルとコネクタの接続部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げるような負荷を加えないよう注意すること。[カテーテルの抜け、破損、伸び等が発生するおそれがある。]
  - ・コネクタを他の医療機器に接続する場合は、過度な締め付けをしないこと。[コネクタが外れなくなる又は、コネクタが破損し、接続部からの液漏れが発生するおそれがある。]
  - ・体動でねじれると流路が閉塞するおそれがあるので注意すること。
- <相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関する事)>  
アルコール等の有機溶剤を含む消毒剤を使用しないこと。[コネクタにひび割れが生じるおそれがある。]

### 間欠泌尿器用カテーテル

- ・脂溶性の薬剤等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので、注意すること。
- ・使用前、カテーテルサイズや形状等が用途や挿入部等に適合していることを確認すること。
- ・接続部にシリンジ等の他の医療機器を接続する場合は、確実に接続されていることを確認してから使用すること。
- ・カテーテル挿入時に異常な抵抗を感じたり、手技中に患者が痛みを訴えたりした場合は、速やかに操作を中止し、その原因を確認すること。また、担当医の指示のもと適切な処置を行うこと。
- ・カテーテル及びカテーテルと接続している箇所は、過度に引っ張ったり、押し込んだり、折り曲げるような負担を加えないように注意すること。[カテーテルの抜け、破損、伸び等が生じるおそれがある。]

### 汎用洗浄用注射筒

脂溶性の薬剤等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので、注意すること。

### 吸引キット

- ・使用前に、トラップにひび割れ等がないこと、カテーテルおよび吸引チューブに折れや閉塞がないことを確認すること。
- ・羊水等の吸引前に、マウスピースがシリンジ等に確実に接続されていることを確認すること。
- ・吸引キットを使用する際は、トラップを傾けて使用しないこと。また、トラップの目盛以上に羊水等を吸引しないこと。
- ・口で吸引する場合は感染の危険がありますので常にトラップ内の羊水の量に注意すること。
- ・吸引後、カテーテル内に残った吸引物が患者へ逆流するのを防ぐため、カテーテル内に吸い残しがないこと確認すること。
- ・キャップを外すときは、吸引物がこぼれないように、また手指に付着しないように慎重に行うこと。
- ・脂溶性の薬剤等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので、注意すること。

### 臍帯閉鎖術用クリップ

臍帯は臍帯クランプの中央で結紮すること。

### 天然ゴム製手術用手袋・非天然ゴム製手術用手袋(共通)

- ・製品の特性上、鋭利なものに接触すると破れたり、穴があいたりすることがあるため、使用前に損傷やピンホールのないことを確認すること。
- ・薬品、溶剤などにより膨潤したり浸透したりする場合があるため、状態を確認の上使用すること。

<相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関すること)>

電気メス使用時に高周波回路が形成された場合、手袋の電気的絶縁性が損なわれ、火傷を引き起こすことがあるため、注意すること。

### 天然ゴム製手術用手袋

- ・天然ゴムは、かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談してください。
- ・天然ゴムと接触する機会が多くなると天然ゴムアレルギー発症のリスクが高くなると考えられるため、使用に際しては十分に注意すること。

### 非天然ゴム製手術用手袋

体質・使用状況によりかゆみ、かぶれ等の遅延性のアレルギー性症状(IV型一遅延型)を引き起こすことがある。装着後数時間後から症状が発現することがある。

### 単回使用メス、単回使用メス用刃(共通)

- ・刃面は、鉗子等の固いもので直接はさまないこと[刃面が損傷するおそれがある]。
- ・適切な形状の刃を選択すること。

### 単回使用汎用サージカルドレープ

- ・かぶれ等の皮膚障害が生じた場合、アレルギー性症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置をすること。
- ・高齢者等で皮膚が弱い方の場合、粘着テープ又は粘着性フィルムドレープの貼付時・剥離時には注意が必要である。特に皮膚に緊張をかけないようにすること。皮膚が引っ張られて炎症を起こすことがある。

### 吸引チューブ

- ・ある程度の練り込み(黒い点)は発生するが、性能上影響はない。
- ・脂溶性の薬剤等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので、注意すること。

### X 線造影材入りガーゼ、X 線造影材入りスポンジ、医療ガーゼ、開腹術用スポンジ、綿状パッド、医療用不織布、医療脱脂綿、コットンボール(共通)

体内に留置しないこと。

### X 線造影材入りガーゼ、開腹術用スポンジ

ヒモ付タイプの場合は、取り付けられているヒモは、身体内部から出して使用すること。

### X 線造影材入りスポンジ

- ・ヒモ付タイプの場合は、取り付けられているヒモは、身体内部から取り出して使用すること。
- ・ガーゼ巻きタイプの場合は、糸を強く引っ張らないこと。また、製品を分解して使用しないこと。

### 綿状パッド

ガーゼ巻きタイプの場合は、糸を強く引っ張らないこと。また、製品を

分解して使用しないこと。

### 【保管方法及び有効期間等】

- 1.貯蔵・保管方法  
水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避け、清潔な場所に保管すること。
- 2.有効期間  
本品の容器若しくは被包に記載  
[自己認証(自社データ)による(使用期限参照)]

### 【主要文献及び文献請求先】

<主要文献>

- (1) 厚生労働省 医政総発 1004 第 1 号  
(平成 29 年 10 月)
- (2) 日本医療機器産業連合会 医機連発第 187 号  
(平成 29 年 3 月)
- (3) 厚生労働省 医政総発 1227 第 1 号  
(平成 29 年 12 月)

<文献請求先>

ハクゾウメディカル株式会社

### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

・製造販売業者

ハクゾウメディカル株式会社

大阪市中央区徳井町 2 丁目 4 番 9 号

<https://www.hakuzo.co.jp/>

TEL 06-6942-0451(代)